

数理・データサイエンス・AI教育プログラム 自己点検評価

評価日時：2021年3月30日 会議名称：運営協議会 開催場所：木更津工業高等専門学校

参加者：学校長、各副校長、各学系・学科主任、事務部長、総務課長、学生課長

目的：令和2年度の数理・データサイエンス・AI教育プログラムの自己点検内部評価

評価項目：文部科学省「数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度(リテラシーレベル)」の審査項目の観点による評価

認定制度の審査項目	モデルコアカリキュラム	対象科目	内部評価
数理・データサイエンス・AIは、現在進行中の社会変化（第4次産業革命、Society 5.0、データ駆動型社会等）に深く寄与しているものであること、また、それが自らの生活と密接に結びついているものであること。	導入 1-1. 社会で起きている変化 1-6. データ・AI利活用の最新動向	現代社会A	A
数理・データサイエンス・AIが対象とする「社会で活用されているデータ」や「データの活用領域」は非常に広範囲であって、日常生活や社会の課題を解決する有用なツールになり得ること。	導入 1-2. 社会で活用されているデータ 1-3. データ・AIの活用領域	情報処理Ⅰ（機械工学科） 情報リテラシー（電気電子工学科） 計算機演習（電子制御工学科） コンピュータ入門Ⅰ（情報工学科） 情報処理入門（環境都市工学科）	A
様々なデータ利活用の現場におけるデータ利活用事例が示され、数理・データサイエンス・AIは様々な適用領域（流通、製造、金融、サービス、インフラ、公共、ヘルスケア等）の知見と組み合わせることで価値を創出するものであること。	導入 1-4. データ・AI利活用のための技術 1-5. データ・AI利活用の現場	現代社会A	A
数理・データサイエンス・AIは万能ではなく、その活用に当たっての様々な留意事項（ELSI、個人情報、データ倫理、AI社会原則等）を考慮することが重要であること。	心得 3-1. データ・AI利活用における留意事項 3-2. データを守る上での留意事項	情報処理Ⅰ（機械工学科） 情報リテラシー（電気電子工学科） 計算機演習（電子制御工学科） コンピュータ入門Ⅰ（情報工学科） 情報処理入門（環境都市工学科） 現代社会A	A
実データ・実課題（学術データ等を含む）を用いた演習など、社会での実例を題材として、「データを読む、説明する、扱う」といった数理・データサイエンス・AIの基本的な活用法に関すること。	基礎 2-1. データを読む 2-2. データを説明する 2-3. データを扱う	工学実験ⅠA・工学実験ⅠB（機械工学科） 実験実習ⅠA・実験実習ⅠB（電気電子工学科） 実験実習Ⅱ・実験実習Ⅲ（電子制御工学科） 実験・実習ⅠA・実験・実習ⅠB（情報工学科） 測量実習A・測量実習B（環境都市工学科）	A

S：審査項目の観点を上回る成果を達成した。

A：審査項目の観点通りの成果を達成した。

B：審査項目の観点を上回る成果を達成できなかったが、達成に向けての対応策が立案され、対応に着手している。

C：審査項目の観点通りの成果を達成できず、達成に向けての対応策が立案されていない。